

ポスター発表 抄録

P-1

大学生の環境に対する態度についての研究

○加藤幸真（日本大学文理学部体育学科）

△恩田裕介（日本大学大学院研究生）

△澤村博（日本大学）

キーワード：関心、動機、行動

今日、環境問題に関する話題は新聞、TV等でよく耳にする。そのことから国民の環境に関する興味・関心は高まっているといえる。しかし、現状として中学校・高等学校で環境問題について学ぶ機会は多くはなく、大学生に至っては関係科目を選択しない限り皆無といつても過言ではない。そして、いくらマスメディアを通して地球環境の実態を知ったところで、環境問題に関心を示さないので、実際に行動につながってこないのでないだろうか。

そこで本研究では、大学が実施しているキャンプ実習に参加した大学生140名を対象とし、大学生の環境に対する態度を関心・動機・行動の3つの観点から明らかにすることを試みる。そのために質問紙による調査を行い、因子分析を用いて因子構造を明らかにしていく。また性差などの個人的属性による違いを検討して、大学生に必要な環境教育の在り方について模索するための一資料とする。

P-2

レクリエーション教育における実践的展開の報告

○茅野宏明（武庫川女子大学）、長岡雅美（武庫川女子大学）、吉田圭一（武庫川女子大学）

武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科及び同短期大学部人間関係学科では、過去20数年にわたり、レクリエーション関連資格の取得をめざす学生の教育プログラムの一環として、通常期に講義・実技演習科目を開講するだけではなく、集中講義として宿泊型教育プログラム（宿泊教育）も実施している。本研究では、特に宿泊教育に関する実践的展開を報告し、今後の課題について考察することを目的としている。

宿泊教育は、毎年2月初旬に2泊3日を本学のセミナーハウス（北摂キャンパス丹嶺学苑）で開講している。平成19年度には48名（大学生21名、短大27名）が参加した。

指導者としての能力を向上する目的の宿泊教育は、実践力の習得と生活力の向上の2点を目指している。実践力研修では、①企画と運営、②楽しさや達成感の体験学習、を中心に行き、生活力研修では、①時間の厳守、②施設の規律厳守、③協働、を重視した学習を展開している。

宿泊教育の終了時、学生たちの充実した表情が印象的である。「楽しく過ごすこと」と「だらしなく過ごすこととの違いを体験的に学習し、指導者としてあるいは母として、対人育成に携わる時の喜びが、人間社会の幸福化への道筋となることに気づき始めた表情が頼もしい。今後は、宿泊教育による行動変容を調査研究し、その効果を明らかにしたい。